



しなやか先端技術企業集団

環境にやさしいテクノロジーで未来を創造

 **ワイエイシーホールディングス 株式会社**

東証1部 証券コード:6298

事業フィールド



ハードディスク



精密熱処理



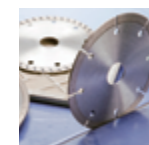
ディスプレイ



工業用計器・制御通信



半導体



精密切断



太陽電池



レーザープロセス



クリーニング



医療

第45期 ビジネスレポート

平成28年4月1日～平成29年3月31日



代表取締役社長
百瀬 武文

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに『第45期ビジネスレポート』をお届けいたします。

当期の業績は、売上高につきましては前年に続き過去最高を更新いたしました。利益面につきましても、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益いずれも前年実績を大幅に凌駕し、増収増益となりました。第46期につきましても通期計画の達成に向け、営業活動の強化を図るとともに、コストの削減に努めてまいります。

平成29年4月よりホールディングス体制に移行し、社名を「ワイエイシイホールディングス株式会社」に改めました。ワイエイシイグループの連携と競争により、今後に向かって成長を続ける盤石な体制の構築を目指します。

平成28年に、かねてから当社の目的使命と位置づけている「より多く社会に貢献する」を実現するため、長年にわたる私の経営経験から辿り着いた一つの答えを「究極の理念」として3つめの企業理念に追加いたしました。「ホールディングス体制への移行」、少し先の会社の姿をイメージし実現に向かっての戦略戦術を全員で検討した「10年後のビジョンの策定」、グループ各社が売上、営業利益、

受注の3種目の成長率を競い合う「企業 の開催」といった具体的な施策を通じて、「究極の理念」の実現を目指してまいります。

また、当期の期末配当金は1株につき10円とし、中間配当金の10円とあわせて年間20円とさせていただきます。株主の皆様への利益還元を経営上の重要なテーマのひとつと位置づけ、業績や事業計画などを総合的に勘案し、安定的な配当を継続することを基本方針としております。引き続き競争力の強化に努め、株主の皆様への利益の拡大に努めてまいります。

当期は新たにワイエイシイエレクトクス株式会社をグループ会社に迎え、医療分野への進出を果たしました。また、株式会社日立茨城テクニカルサービスよりイオンビーム応用装置製造事業を譲受いたしました。今後も既存事業における規模の拡大並びにM&A、アライアンスに積極的に取り組み、更なる経営基盤の拡充を進めてまいります。

これからも引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成29年6月

創業理念

1. 技術集約会社
2. 旺盛なバイタリティー
3. リスクに果敢にチャレンジする
4. 少数精鋭主義

成長理念

1. 社員の豊かさを追求する（経済的、精神的）
2. 国・地方自治体により多く納税する
3. 新製品の創造・提供
4. 地域社会への貢献
5. 株主を優遇する
6. 環境保全のため省資源・省エネルギーを図る

究極の理念

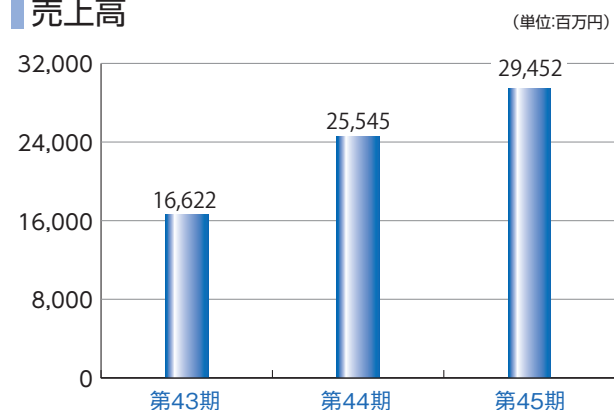
～より多く社会に貢献するために～

1. 社員の成長
2. 雇用の拡大
3. 雇用条件の向上
4. 納税額の拡大

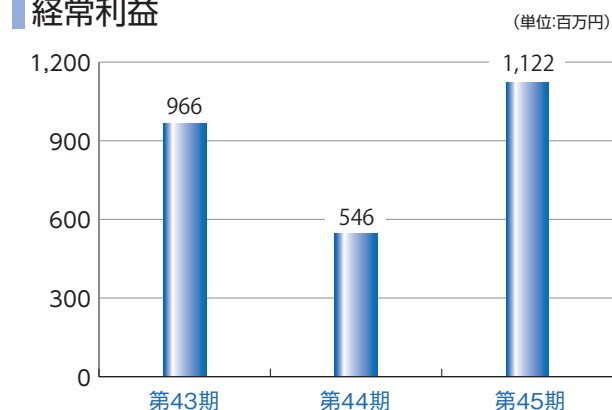
さあ今日も、
ときめきと感動の日々であれ！

	第43期	第44期	第45期
売上高	16,622百万円	25,545百万円	29,452百万円
経常利益	966百万円	546百万円	1,122百万円
親会社株主に帰属する当期純利益	639百万円	28百万円	790百万円
1株当たり純資産額	1,521.09円	1,482.87円	1,545.38円
自己資本比率	54.9%	38.1%	42.5%
配当金	20円	20円	20円

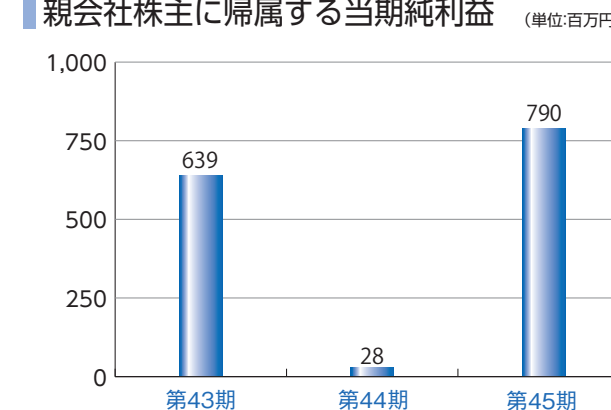
■売上高



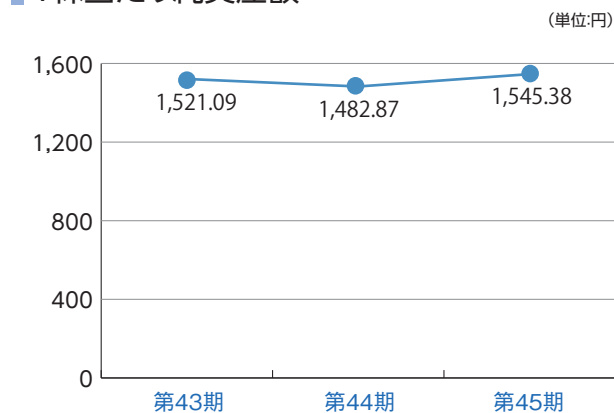
■経常利益



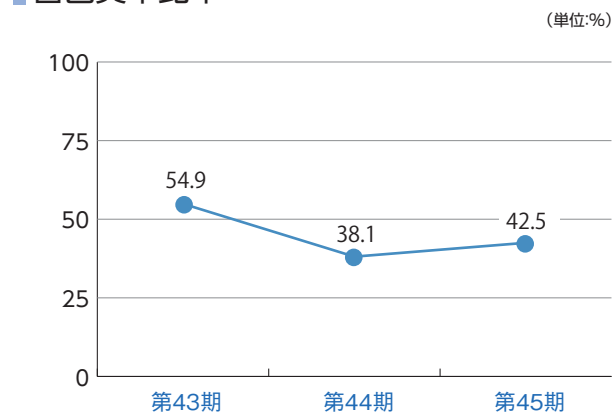
■親会社株主に帰属する当期純利益



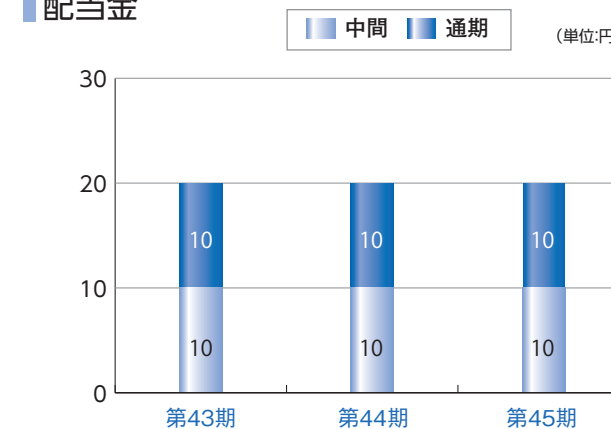
■1株当たり純資産額



■自己資本比率



■配当金



事業概況

当連結会計年度(平成28年4月1日から平成29年3月31日)における世界経済は、米国では雇用情勢の改善を背景に個人消費が拡大するなど、堅調な成長が続きました。欧州では量的緩和の継続を背景にゆるやかな回復が続き、中国経済は一時は失速が懸念されたものの、その後は持ち直して堅調に推移するなど、総じてゆるやかな回復基調で推移しました。一方で、世界的なナショナリズムの台頭、シリアや北朝鮮情勢などの懸念事項も広がっており、先行き不透明感も大きくなっています。

日本経済においては、政府・日本銀行による経済政策を背景に、雇用が堅調に推移し、個人消費に持ち直しの兆しが

見られるなど、ゆるやかな回復基調で推移しました。

このような経済状況のもとで当社グループは、刻々と変化する顧客ニーズを捉えた装置の開発と市場化に努めてまいりました。

この結果、当連結会計年度の業績は、売上高294億52百万円(前連結会計年度比15.3%増)、営業利益10億36百万円(同28.3%増)、経常利益11億22百万円(同105.5%増)、親会社株主に帰属する当期純利益7億90百万円(同2,719.5%増)となりました。

経営の現状と次期見通し

今後の見通しにつきましては、世界経済は先行き不透明感が広がっているものの、好調な米国に支えられ、中国、欧州、国内とも足

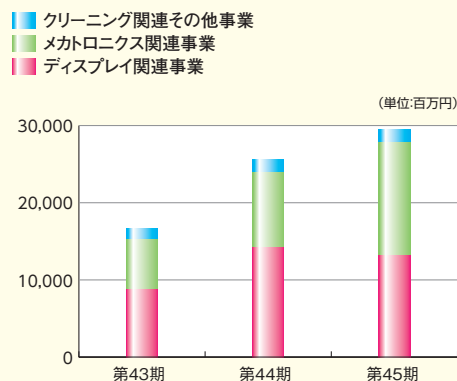
元の景気は改善傾向にあり、総じてゆるやかな回復基調が続くものと思われます。

このような事業環境のもと、当社グループにおきましては平成29年4月1日をもって持株会社体制に移行いたしました。ここ数年のM&Aにより拡大した当社グループ間の更なる連携強化を図るとともに、将来に向かって成長を継続するための強固な組織基盤の構築を図ってまいります。

次期の業績は、連結ベースで売上高350億円、営業利益20億円、経常利益15億円、親会社株主に帰属する当期純利益10億円を予想しております。

セグメント別の状況

セグメント別売上高



注：第44期より、報告セグメントの区分を変更しており、第43期につきましては、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で掲載しております。

ディスプレイ関連事業

スマートフォンやタブレット端末向けのエッチング装置の旺盛な需要を取り込み、また、収益性の向上に関する取り組みにより改善が見られるなど、業績は堅調に推移しました。売上高については一部案件の納期遅れ等の要因により、微減となりました。

これらの結果、ディスプレイ関連事業の売上高は132億7百万円(前連結会計年度比6.8%減)となり、セグメント利益は3億94百万円(同29.5%増)となりました。

メカトロニクス関連事業

前連結会計年度下期より連結対象となったワイエイシイゲーター株式会社が当連結会計年度においては期初から業績に寄与したほか、当第2四半期連結累計期間よりワイエイシイエレックス株式会社を新たに連結対象に加え、業績は好調に推移しました。

これらの結果、メカトロニクス関連事業の売上高は145億55百万円(前連結会計年度比50.0%増)となり、セグメント利益は9億98百万円(同8.0%増)となりました。

クリーニング関連その他事業

クリーニング関連装置分野において顧客需要を確実に取り込み、業績は底堅く推移しました。

これらの結果、クリーニング関連その他事業の売上高は16億89百万円(前連結会計年度比1.2%増)となり、セグメント利益は2億91百万円(同49.3%増)となりました。

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当期 平成29年3月31日現在	前期 平成28年3月31日現在
【資産の部】		
1 流動資産	24,308	26,781
固定資産	8,162	7,979
有形固定資産	5,446	5,343
無形固定資産	890	1,049
投資その他の資産	1,825	1,586
資産合計	32,470	34,760
【負債の部】		
2 流動負債	10,907	14,368
固定負債	7,515	6,893
負債合計	18,422	21,262
【純資産の部】		
株主資本	14,001	13,385
その他の包括利益累計額	△203	△145
新株予約権	46	31
非支配株主持分	202	226
3 純資産合計	14,047	13,498
負債純資産合計	32,470	34,760

連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	当期 自平成28年4月1日 至平成29年3月31日	前期 自平成27年4月1日 至平成28年3月31日
売上高	29,452	25,545
売上原価	23,826	20,684
販売費及び一般管理費	4,589	4,053
営業利益	1,036	807
営業外収益	175	141
営業外費用	89	403
経常利益	1,122	546
特別利益	35	23
特別損失	17	26
税金等調整前当期純利益	1,140	543
法人税等	331	462
当期純利益	809	80
非支配株主に帰属する当期純利益	19	52
親会社株主に帰属する当期純利益	790	28

4 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	当期 自平成28年4月1日 至平成29年3月31日	前期 自平成27年4月1日 至平成28年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,369	△4,715
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,007	△3,862
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,779	5,857
現金及び現金同等物に係る換算差額	△35	△90
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,548	△2,810
現金及び現金同等物の期首残高	5,155	7,966
現金及び現金同等物の期末残高	6,703	5,155

POINT 1 流動資産

当連結会計年度末における流動資産は243億8百万円となり、前連結会計年度末に比べ24億73百万円減少しました。主な増加は、現金及び預金15億86百万円、商品及び製品2億62百万円で、主な減少は、仕掛品24億52百万円、受取手形及び売掛金14億75百万円であります。

POINT 2 流動負債

当連結会計年度末における流動負債は109億7百万円となり、前連結会計年度末に比べ34億61百万円減少しました。主な増加は、前受金2億70百万円であり、主な減少は、支払手形及び買掛金15億53百万円、短期借入金14億58百万円、未払法人税等3億46百万円、1年内償還予定の社債3億円であります。

POINT 3 純資産

当連結会計年度末における純資産は140億47百万円となり、前連結会計年度末に比べ5億49百万円増加しました。その結果、自己資本比率は42.5%となり、1株当たり純資産は1,545円38銭となりました。

POINT 4 連結キャッシュ・フロー

当連結会計年度における営業活動による資金は、43億69百万円の増加(前連結会計年度は47億15百万円の減少)となりました。

これは主に、

■プラス要因

- (1) 「たな卸資産の減少」27億73百万円
- (2) 「売上債権の減少」24億98百万円
- (3) 「税金等調整前当期純利益」11億40百万円

■マイナス要因

- (1) 「仕入債務の減少」24億93百万円
- (2) 「法人税等の支払額」8億15百万円
の影響によるものです。

また、投資活動による資金で10億7百万円減少、財務活動による資金で17億79百万円減少した結果、当連結会計年度末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度に比べ15億48百万円増加し、67億3百万円となりました。

ホールディングス体制の発足と「究極の理念」

旧ワイエイシイ株式会社の事業部門を分社化し、2017年4月よりホールディングス体制を発足いたしました。ここ数年のM&Aにより増加したグループ会社と、旧ワイエイシイの4事業会社が横一線に並ぶことにより、グループ各社の「連携と競争」をより一層強化し、さらなる成長を目指します。

さて、当社は2016年に3つめの企業理念として「究極の理念」を定めました。

さらに、具体的に下記の施策を実行し、実現を目指してまいります。

究極の理念 ～より多く社会に貢献する～

- 1. 社員の成長
- 2. 雇用の拡大
- 3. 雇用条件の向上
- 4. 納税額の拡大

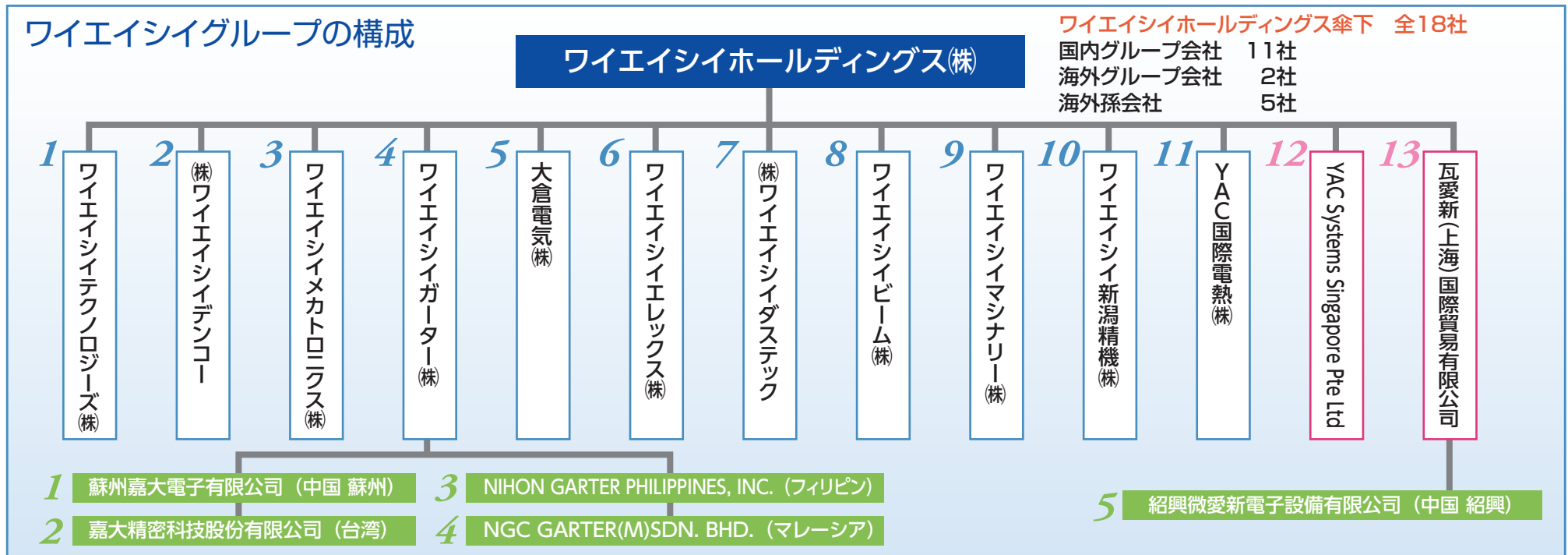
この「究極の理念」をより多く実現するために、下記に取り組みます。

- 1. 規模の拡大
- 2. 高収益体質の確立
- 3. 財務体質の強化
- 4. 全員経営

- 1. ホールディングス体制
- 2. 10年後のビジョンの策定

(将来の会社の姿をイメージし、社員のやる気を引き出す)

ワイエイシイグループは、より多く社会に貢献するため、今後も成長を続けてまいります。



会社概要

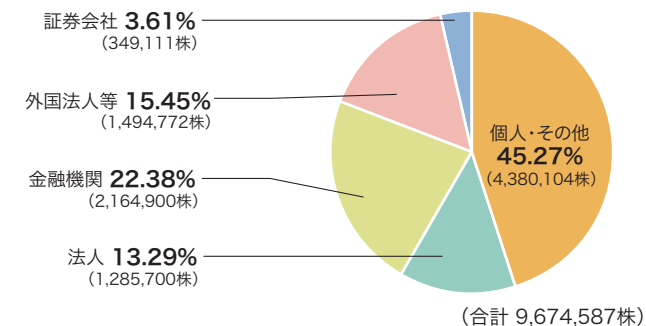
商号 ワイエシホールディングス株式会社
 英文表示 Y.A.C. HOLDINGS CO., LTD.
 本社 東京都昭島市武蔵野三丁目11番10号
 設立 昭和48年5月11日
 資本金 2,756百万円
 従業員数 205名 (連結836名)
 (出向社員・契約社員等の臨時雇用者含まず)

株式の状況

会社が発行する株式の総数		34,388,000株
発行済株式の総数		9,674,587株
当期末現在の株主数		4,379名
個人・その他※	4,229名	4,380,104株
法人	34名	1,285,700株
金融機関	25名	2,164,900株
証券会社	34名	349,111株
外国法人等	57名	1,494,772株

※自己株式を含みます。

所有株式数分布状況



役員・執行役員

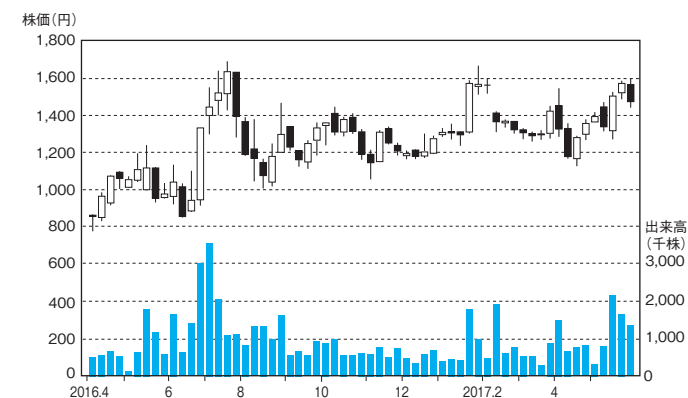
代表取締役社長	百瀬 武文
取締役常務執行役員	副島 幸雄
取締役常務執行役員	寺本 和政
取締役	佐藤 康男
取締役	伊藤 利彦
取締役	大福 芳弘
取締役	福田 辰徳
取締役	大倉 章裕
取締役	久保 進
取締役	石田 祥二 ※社外取締役
取締役	木船 常康 ※社外取締役
常勤監査役	古橋 博
監査役	高田 直規 ※社外監査役
監査役	飯田 哲郎 ※社外監査役
執行役員	坂本 克幸

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社モモタケ	1,220	12.61
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,059	10.94
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG/ JASDEC/FIM/LUXEMBOURG FUNDS/UCITS ASSETS	430	4.44
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	288	2.98
百瀬 武文	280	2.89
CHASE MANHATTAN BANK GTS CLIENTS ACCOUNT ESCROW	245	2.53
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	181	1.87
NOMURA PB NOMINEES LIMITED OMNIBUS-MARGIN (CASHPB)	164	1.69
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	143	1.48
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	134	1.39

※当社は、自己株式を745,801株保有しておりますが、大株主からは除外しております。

株価・株式売買高の推移(週足)



株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日	同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
期末配当金受領株主確定日	3月31日		〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
中間配当金受領株主確定日	9月30日		TEL 0120-232-711 (通話料無料)
定時株主総会	毎年6月	上 場 証 券 取 引 所	東京証券取引所
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社	公 告 の 方 法	電子公告により行います
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社		公告掲載URL http://www.yac.co.jp/ <small>(ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)</small>

(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にでもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

ホームページのご紹介

株主・個人投資家の方々に対しての
当社の状況をわかりやすく伝えたコンテンツを
提供しております。

<http://www.yac.co.jp/>

または、

で検索ください。

ワイエイシイホールディングス 株式会社

〒196-0021 東京都昭島市武蔵野3-11-10
TEL:(042)546-1161(代表) FAX:(042)546-1107
URL <http://www.yac.co.jp>